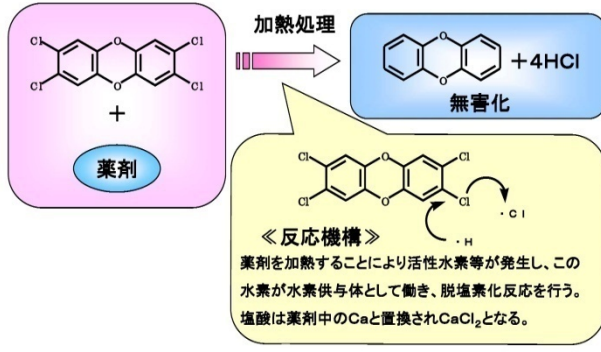


【分野】 ダイオキシン類
分解・焼却炉解体無害化

【キーワード】 ダイオキシン類・加熱還元法

ダイオキシン分解法の原理



焼却炉解体発生物および汚染土壌中のダイオキシン類無害化装置(可搬式)



1999年ダイオキシン類対策技術研究会

—目的—
薬剤法と微生物法をベースとする焼却飛灰・土壌中のダイオキシン類の無害化技術の実用化を推進する

1999年通産省・NEDO地域コンソーシアム研究開発採択
【管理法人:(財)九州産業技術センター】

2000年~2002年まで実用化研究推進

2002年~2008年炉解体対策技術研究会

実用化事例の蓄積

2008年~環境対策研究会

埋立再生に伴うDXNs無害化実験で成果確認

無害化結果

No	パッチ式キルン				連続式キルン	
	0	1	2	3	4	5
薬剤添加量 (%)	-	5	5	5	5	5
処理温度 (°C)	-	400	450	500	450	450
処理時間 (分)	-	60	60	60	60	60
Airフロー	-	50ml/min	←	←	←	←
ダイオキシン類濃度 (ng-TEQ/g)	15	0.16	0.11	0.093	0.13	0.0048

焼却炉解体に伴うDXNs無害化処理で実績積み重ね

ダイオキシン類無害化データ

種類	毒性当量
原灰	14000 (pgTEQ/g)
処理灰	93 (pgTEQ/g)
排ガス	0.5 (pgTEQ/m ²)

条件: 450~500°C、薬剤添加量: 5%
滞留時間: 1時間、